

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	児童一人一人の理解度に応じた学習活動を工夫し、目的意識をもって主体的に学ぶための教育活動を推進する。	中間評価	校内研究を柱として実態に合わせた学習活動を工夫している。「わかった。できた。」を実感することで学習への意欲の高まりが見られる。	最終評価	目的意識をもち、できた実感をとまなう学習活動が進められたことで、主体的に学ぶ意欲だけでなく、基礎学力の向上にもつながった。
		授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰にでもわかりやすく、安心して参加し、ともに学ぶことのできる学習環境を整える。		校内で統一した学習のきまりや学習の流れを掲示することで、どの子ども安心感をもち、主体的に学習に取り組めるようになってきている。		学習環境の整備が進められたことで、集中して学習に取り組むことができるようになり、学力の向上にもつながった。

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語	<p>学 平仮名の読み書きについては、おおむね習得をしているが、促音、長音、拗音などになると正しく書くことが難しい。</p> <p>学 文字や文に興味をもって、読書や読み聞かせの習慣が身に付いてきている。声に出して読むことにも意欲的です。音読練習に取り組んでいる児童が多い。</p> <p>学 相手の話を聞く際には、姿勢などの確認が必要な児童がいる。話を聞いていても、内容を十分理解できなかつたり、内容の確認が必要になったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や書き順に気を付けて丁寧に文字を書く習慣を身に付けていく。また、書いた字や文を確認して正しく書くことができるようにする。</li> <li>手を止めて、相手の方を見て話を聞くことができない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名、片仮名の書き取り練習を継続的に取り組む。また、言葉集めや言葉探しなどの活動を取り入れ、いろいろな言葉遣いになれることができるようにする。</li> <li>教師による読み聞かせを行う。国語の学習材に合わせて関連する図書を紹介し、興味の幅を広げる。</li> <li>「話し方」「聞き方」のポイントを提示する。特に、聞く活動の際には、相手を意識して最後まで集中して話を聞くことができるように声を掛けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名や片仮名を正しく書くことは、概ね身に付いてきている。漢字は書き順や「止め」「はね」などの細かい部分の違いを書き間違えてしまうことがあったので、字の形の特徴をつかめるように指導していく。</li> <li>「話す」「聞く」については、話し方名人や聞き方名人としてポイントを確認して取り組み、定着が図れた。国語科として取り組んだことを日々の生活の中でも実践できるように、身に付けさせていくことが今後の課題と感じる。</li> <li>すすんで本を手取る習慣が身に付いてきている。とくに国語の学習に関連した図書への読書が増えた。読み聞かせや音読練習などを通して意欲的に読もうとする姿が見られるようになった。また、本を読んで分かったことをクイズや絵本、図鑑などにまとめる書く活動へと積極的に取り組むことができるようになってきている。</li> </ul>	
	算数	<p>学 数字の読み書きや数唱は身に付いている。10の構成について、理解できている児童が多いが、指を使って確認が必要な児童もいる。</p> <p>学 10までのたし算・ひき算については、理解できている児童が多い。文章の問題になると、苦手意識が見られる。</p> <p>学 学習内容が定着するまでに時間を要する児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10の構成について理解できるようにする。</li> <li>学習内容を定着させることが難しい児童が数名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で、5分間程度のミニ計算タイムを行い、簡単な数の構成や計算などを繰り返し確認できるようにする。</li> <li>数の構成が十分理解できていない場面では、具体物を用いて考えるようにさせる。</li> <li>授業の中で5分間のミニ計算タイムを設定する。数の構成や簡単な計算練習などに取り組み、定着できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニ計算タイムでは時間を決めて取り組むことで素早く計算ができるようになり、10の構成についてはほとんどの児童が理解することができている。指を使って数える習慣が残っている児童もいるが、考え方としては身に付いてきている。たし算やひき算の計算についても、概ね理解できている。しかし、文章を読んで立式することや+と-が混合になっている計算の場合になると理解が確実とは言えないので、次年度の指導につなげていく。</li> <li>毎日の家庭学習で繰り返し色々な問題に取り組んだことで、既習事項についての定着を図ることができた。その中で、「何時何分」や「何番目」などは、まだ十分に身に付いていないため、定期的に取り組むよう指導する必要がある。</li> </ul>	
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学 話を最後まで聞くことが難しい場面もある。新出漢字の練習に意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>学 いろいろな単語を使って、文章を書けるようにしていく必要がある。語と語のつながりに注意して文章を書くことに苦手な意識をもつ児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を最後まで集中して聞けるよう指導していく必要がある。話の大事などところをとらえて話せるようにする。</li> <li>知っている片仮名や漢字を活用して文章を書くことが苦手な児童が多い。片仮名や漢字を適切に使って文章が作れるよう指導する必要がある児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞く活動では注意を喚起してから話す。また、話す活動は伝えたいことを伝えられるよう、教師が話型の模範を示す。</li> <li>「書くこと」の単元で語と語のつながりに注意して文章が書けるよう指導する。学習活動の中に書く活動を意図的・計画的に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に伝わるように話す事柄を考えたり、話の内容を落とさないように集中して聞き、感想を持ったりすることができるようになってきた。</li> <li>朝学習の時間に漢字の小テストをすることでテストの平均点が上がるとともに、漢字の学習に対する意欲も向上してきた。</li> <li>文章を書くとき、主語と述語との関係に気を付けて書くように指導する。</li> </ul>	
	算数	<p>学 具体物を動かす場面を多く取り入れることで、たし算・ひき算の計算の仕方を理解してきている。</p> <p>学 文章題を解くことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り上がりのある加法の計算の仕方について定着させる必要がある。</li> <li>文章題の把握を苦手にしてしている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中でブロックなどの半具体物を用いた操作活動を取り入れる。練習問題で定着を図る。</li> <li>文章題を解く上で、キーワードとなる言葉に注目させて問われたことを理解した上で、解くことを徹底させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2位数の加減法の筆算の仕方について理解し、確実に計算できるようになってきた。</li> <li>数量の関係に着目して問題が解けるようになってきた。</li> <li>長さ・かさ、時こくと時間などについては、学級活動の場面でも取り上げ、日常生活と結び付けて考えていけるようにする。</li> </ul>	
3	国語	<p>調 漢字の読み取りはよいが、書き取りと筆順については、5ポイント目標値を下回っている。場面の様子、登場人物の気持ちの読み取り等も同様に下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書き取りが苦手である児童が多い。</li> <li>要点をつかんで話を聞きとることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の繰り返し練習を大切にする。また、辞書を手元に用意し、辞書を活用して成り立ちや書き順を身に付けさせる。5W1Hを意識して聞き取ったり読み取ったりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分からない言葉があった時や筆順について、日常的に辞書で調べる習慣が付いてきている。しかし、個人差があるため家庭とも連携して語彙を増やしていく。</li> <li>要点をつかんで話を聞ける児童が増えてきた。</li> </ul>	<p>調 「話すこと・聞くこと」の指導に力を入れたので、学力定着度調査の領域別正答率において「話すこと・聞くこと」や「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域で区の目標値を上回っている。しかし、「書くこと」の正答率が59%と5ポイント目標値を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」の単元で語と語のつながりに注意して文章が書けるように指導したので、主語・述語に気を付けて文章が書けるようになった。</li> </ul> <p>調 学力定着度調査では、算数の関心・意欲・態度が高いので全体の達成率が80%と区を上回っている。授業に操作活動や練習問題を取り入れたので、文章題を正確に把握できるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に辞書を使う習慣が身に付いた児童は、語彙力も少しずつ上がり、書き取りの力も付いてきた。しかし、新宿区学力定着度調査では、まだ十分に身に付いていない児童もいる。引き続き、語彙力、漢字の書き取りの力を養っていく。</li> </ul>

	算数	<p>調 学力定着度調査では、平均とほぼ同程度で、おおむね良好である。中では、たし算やかけ算や長さ・かさの正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算やかけ算では、繰り上がり正しく処理できない児童がいる。</li> <li>・長さやかさでは、単位換算を苦手とする児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導や家庭学習を利用し、学習を習慣化させ、定着を図る。</li> <li>・単位換算では、単元ごとに既習事項を振り返り、定着を図るとともに、日常化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・70%以上の児童は、技能も正しく身に付いている。</li> <li>・ただ、まだ定着が不十分な児童には、個別指導、振り返りなどで、個別に対応しているところである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算やかけ算では、計算力も上がり、自信をもって取り組む児童も増えたが、ワークやドリルのかき込むを見ると、正確性には若干課題が残った。引き続き、検算や見直しを徹底させるなど、集中して取り組ませていく。</li> <li>・長さやかさでは、新しい単元に入っても繰り返し学習を続けることで、単位換算の定着がはかれてきた。引き続き忘れないよう、定期的に振り返り学習を続けていく</li> </ul>
4	国語	<p>調 学力定着度調査の領域別正答率において、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域で区の目標値を大きく上回っている。しかし、「書くこと」の正答率が45%と5ポイント目標値を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙が少なく、文で表現するのが苦手な児童の割合が多い。また、順序立てて書いたり、物事に対して自分の考えを書いたりすることが特に課題である。</li> <li>・平均は上回っているが、話すこと聞くことについて最後まで相手意識をもって、話す・聞くことに取り組むことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辞書を引く活動を多く取り入れて、語彙数を増やす。また、自分の意見を発表したり、文で表現したりする活動を多く取り入れる。文章は、定型文や手本となる文を提示して、その表現を使いながら書かせることで、苦手意識をなくしていく。</li> <li>・メモを取りながら話を聞きまとめる活動や、ポイントをおさえて聞く活動を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意味や漢字が分からなくなったとき、辞書を引く習慣が身に付いてきた。文章力について、読む単元において登場人物の気持ちや筆者の考えなどを読み取って、短い文章で書くことを繰り返し行った。朝学習の時間を活用して、定期的に小さな用紙を使いミニ作文に取り組んでいる。「大好きな食べ物」「嫌いな食べ物」など、テーマに沿った自分の考えを書き、隣の友達に読んでもらって「なるほど」と納得させることをめあてにしている。文で表現することに対して、苦手意識を低減でき、表現力も向上してきた。しかし、表現がたつなかつたり、どう書いてよいか分からなかったりなどすることがまだある。自分の考えをどう書けばよいか、よい表現を紹介したり、ヒントを与えたりしながら、書き方を覚えさせていく。</li> <li>・ポイントを押さえて聞ける児童が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ作文や、登場人物の気持ちや筆者の考えなどを短い文章で書くことに加えて、文章を書くための材料づくりと文章の内容整理のために、思考ツール(マップ図、ボーン図)を活用した。これにより、書くことが苦手な児童も、自分で文を組み立てて、書けるようになった。</li> <li>・教科書上巻の巻末に、「どんな人物かを表す言葉」「どんな物や事がらかを表す言葉」「気持ちを表す言葉」の「言葉のたから箱」を教室に掲示し、文章を書いたり、発表したりするときにその言葉を使わせた。自分の考えや、気持ちを表現する語彙を増やすことできた。</li> <li>・聞き取りメモの工夫を学び、大切なことを書きもらさないように、文章でメモを書くのではなく、箇条書きにししたり、線やしるしを使ったりする工夫ができるようになり、聞き取る力が向上してきた。</li> <li>・書くこと、聞くことの力は向上してきたが、苦手意識が低下したり、表現する語彙が増えてきたりする段階であるので、引き続き書くことと、聞くことに重点を置いて取り組ませていく。</li> </ul>
	算数	<p>調 学力定着度調査では、全体の達成率が80%と区を上回っている。しかし、たし算ひき算では、スコアが47.9と目標値を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四則演算については、数が大きくなったり、問題数が増えたりすると、処理にミスが増える児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリル学習などで、根気強く四則演算の練習に取り組ませ、精度を高めていく。また、見直しを習慣化させ、集中して学習に取り組めるよう環境を整えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲があり、根気強く学習に取り組むことができている。そのため、正しい知識が身に付いている。</li> <li>・問題数が増えたり、大きい数の計算になるとミスをしてしまったりすることもあるので、問題文の読み取りをしっかりと行わせたり、たしかめ算を行わせたりしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの演算にも、熱心に取り組み、少しでも速く解こうと意欲的に取り組んでいる。また、ほとんどの児童が正しく演算できている。</li> <li>・問題数を増やすと、正確性には課題が残った。検算や見直しなど励まし、習慣付けていく。</li> </ul>
5	国語	<p>調 学力定着度調査では、目標値は上回っているものの、区平均よりも低く、特に「書く能力」の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業においても、書くことに苦手意識が強く、自分の思いや考えを文章に表すことが難しい児童が多い。</li> <li>・漢字の習得において、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の時間に限らず、各教科において「書く」活動を多く取り入れる。</li> <li>・習熟に応じた個別指導を行い、理解の定着を図る。</li> <li>・朝学習の時間など、漢字の習得のために時間を十分に確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことに対して、苦手意識は低くなりつつあるが、要点が伝わるような分かりやすい文章を書くことには課題がある。</li> <li>・漢字の学習時間をしっかりと確保したり、国語辞典を活用させたりすることにより、小テスト等の点数は上がってきた。定着が図られるよう、引き続き指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語に限らず様々な学習場面において、積極的に国語辞典を活用する児童が増え、語彙力も豊かになりつつある。しかし、書くことに関しては依然苦手意識が強く、伝えたいことを明確に表現することが難しい。新宿区学力定着度調査においても、作文の項目での正答率が低い。書く活動を引き続き授業の中に積極的に取り入れていく。</li> </ul>
	算数	<p>調 学力定着度調査では、全体の達成率が50%と学年が設定した、目標を下回っている。特に、わり算、計算の決まりの標準スコアが全国平均より大きく下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の達成度が2極化しており、D層の児童が多い。</li> <li>・わり算や計算の決まりなどを苦手とし、計算力がついていない児童が30%近くいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解法の見直しをもって学習できるよう、既習事項を積み上げていく。</li> <li>・四則演算については個別に繰り返し指導を行い、家庭学習でも習慣化させ、四則演算の技能が定着するよう声をかけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見直しをもって学習に取り組めるようになってきたため、主体的に学習し、既習を使って、考えることができるようになってきた。</li> <li>・度数分布をみると、2つの山となっているので、基礎的な学習を朝学習や個別指導の時間を利用し、D層の底上げを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題把握から、見直しをもって学習に取り組み、どのようにすれば解けるか、自分で考えることができるようになってきた。そのため、新宿区学力定着度調査の結果も全国平均と同程度となり、向上が見られる。</li> <li>・計算力については改善されつつあるが、図形に課題が残るので、作図を中心に図形に慣れさせていく。</li> </ul>

6	国語	<p>調 学力定着度調査では、達成率が66.7%で、学年が設定した目標値を下回っている。特に、領域では伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、観点別では言語についての知識・理解・技能の習得、とりわけ4年生までの漢字の習得が必要である</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを文章で表現することが苦手な児童が多い。苦手な児童の多くは、語彙が少なく簡単な言葉に言い換えることができずに悩んでいることが多い。</li> <li>これまで学習した漢字や言葉を積極的に使わせ、定着させることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作文の課題を定期的に取り入れ、週に1度は取り組む時間を設ける。その際に、文章中に入れる言葉やテーマを指定することで、題意に合った言葉を選ぶ経験を積ませる。</li> <li>学習したことを掲示板に残し、いつでも授業中に参照できるようにする。学習の初めに、掲示板の内容を振り返らせ、今までの学習とのつながりを意識した取り組みにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くことへの抵抗感は少しずつ減ってきている。しかし、領域別の平均正答率をみると、書くことの正答率が全体的に低いので、D層を中心に短文を作る活動を増やすなど、引き続き底上げを図っていく。</li> <li>掲示してある内容を見て、既習を確認して取り組む児童が増えてきている。定着するまでには時間がかかるため、繰り返し要点を確認していく。</li> <li>文章を書く活動では、習った漢字などを積極的に使おうとする児童が増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短い時間で作文ができる児童が増えた。書くことが苦手な児童についても、時間内に最後まで書こうとする姿勢が見られるようになった。</li> <li>定着を図るために、繰り返し声掛けを行ったことで、友達に聞いたり、辞書で調べたりして、漢字を使おうとする児童が増えた。</li> <li>覚えた言葉や、言語の用法を日常の文に生かすことができるようになってきた。状況や話をする相手によって、言葉を使い分けることや、書き言葉と話し言葉の違いを意識するようになってきた。</li> </ul>
	算数	<p>調 学力定着度調査では、全国平均とほぼ同程度でおおむね良好である。問題の内容では「体積」が目標値に11ポイント届いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成度が2つの山になっている。D層の底上げが必要。</li> <li>体積など頭の中で、形を思い浮かべるのが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なるべく模型など具体物を提示し、解法の見通しを立てる時間を十分にとる。</li> <li>まなびにつなげて連携して学習に取り組んだり、個別指導で指導を繰り返したりして、定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上位層の児童は、見通しをもって学習に取り組み、自分たちで解決することができている。下位層の児童については、支援しながら取り組ませているところである。</li> <li>D層の児童については、個別学習や朝自習の時間を利用し、個別に対応しているところである。</li> <li>体積など図形の学習では、算数的な活動を通して、形や活動をイメージできるよう取り組んでいるところである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの単元でも、問題把握をしっかりさせ、どのようにすれば解けるか見通しをもつ時間を十分にとったことで、問題を解けた達成感を味わい集中力が持続するようになった。書くことが苦手な児童も粘り強く取り組む習慣が付いてきた。</li> <li>図形の学習では、定規やコンパスなどの道具を、正しく使う児童が増え、正確に作図できるようになったことで、新宿区学力定着度調査の結果も向上しており、知識の定着が図れてきた。</li> </ul>
音楽	<p>学 歌唱では、声が弱々しい子もいるが、おおむねとても意欲的で、響きのある声で歌えている。</p> <p>学 器楽では、個別の支援を必要とする児童が各学年数名いる。特に、リコーダーや鍵盤ハーモニカの活動で、苦手とする児童が数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>器楽では、運指を押さえられず、音楽の活動に対して抵抗感を示す子もいる。また、歌唱の際に表情のない歌い方をしている子がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別に指導し、個人で目標を設定し達成感を味わわせる。分かりやくスモールステップで個別指導をする。歌唱の際、発声練習や楽しんで歌える活動を増やし、意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽会に向けて、意欲的に歌唱や器楽の活動に取り組んでいる。器楽では、個別指導の効果があり、演奏できるようになってきている。歌唱では、表情豊かに歌えるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導を適宜行うことで、「演奏できた」と実感できた児童が増えた。スモールステップで目標を設定することで、達成感を味わうことができた。</li> <li>歌唱の活動にとっても意欲的に取り組める学年が多い。さらに発声を工夫しながら歌えるように取り組ませていく。</li> </ul>	
図工	<p>学 全体的に、意欲的に制作できる児童が多い。図工が苦手な児童や支持が通りにくい児童には、個別に支援し、寄り添って指導を行っている。児童が理解しやすいように、実物投影機や写真などを提示し、授業を進めている。また、本を活用し、作品に生かす児童も多く、意欲的・自主的に取り組んでいる。毎時間、声掛けや掲示をし、何よりも安全第一を心掛けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの学年も、児童の学習状況に差ができる。</li> <li>数名、作品のアイデアが浮かぶまでに、かなり時間のかかる児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の発達段階に応じた掲示物や資料を提示したりして、安心して授業に取り組める環境を作る。また、休み時間や昼休みに時間を設け、個別に指導を行う。</li> <li>アイデアが浮かばない児童には、声掛けや美術系の本を活用することを勧め、丁寧に寄り添い指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配慮を要する児童には、担任と連携し、個別指導を行う。</li> <li>アイデアが浮かばない児童のために、タブレットを持参し、いろいろな作品を自由に閲覧できるように、環境を整える。</li> <li>図書館司書と連携し、授業に活用する本を取り寄せ、授業に活かす。また、図工の授業中に、図書室を活用できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任と連携しながら、個別の指導を充実させ、授業を行うことができた。</li> <li>作品のよいところを見付け、褒めて伸ばすことができた。色々な材料や道具等を使い、表現豊かに制作ができていた。鑑賞では、自分の見方や感じ方を広げることができた。</li> <li>児童が、安心して取り組めるように、タブレットや図書室の活用ができるように、環境を整えたことで、学習意欲が高まり、作品にも生かされた。</li> <li>大きな怪我もなく、安全面に気を付けて学習を進められた。</li> </ul>	
特支	<p>学 自分の考えを相手に伝わるように表現することが苦手である。</p> <p>学 流暢に読んだりすらすら書いたりすることが苦手である。</p> <p>学 集中して活動に取り組むことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙を増やすことが課題である。</li> <li>相手意識をもつことが課題である。</li> <li>持続して取り組む力を身に付けることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉のプログラムを活用し、個に応じた学び方で語彙を増やせるようにする。(言葉のプログラムの活用)</li> <li>ソーシャルスキルトレーニングを行う。</li> <li>環境調整を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究でも取り上げた内容を「まなびの教室」でも取り上げ、連携して言葉の学習を進めた。</li> <li>友達と遊びの約束をしていたが行き違いが発生したというような実際の場面での出来事を踏まえ、ソーシャルスキルトレーニングの指導内容を考え実行し、相手意識をもった活動ができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級担任と連携し、言葉の指導を進めた結果、意欲的に取り組む姿が見られ、語彙が増えた。</li> <li>小集団指導を通して、対人関係などのソーシャルスキルトレーニング指導を行った結果、相手の気持ちを考えたり、よりよい声掛けをしたりすることができるようになった。小集団の中でできるようになったことをより大きな集団である学級において実践できるよう、在籍級担任と連携していく。</li> </ul>	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。